

未来へつなぐ「ひと・まち・自然」～Road To 2030 Team NOGATA～

福岡県直方市（2022年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

直方市は、福岡県の北部に位置し、福岡都市圏及び北九州都市圏のベッドタウンとなっている。また一級河川の遠賀川が流れ、北九州国定公園がある自然豊かな地域である。人口は、1985年をピークに減少が進み、今後も人口減少の継続が見込まれる。産業は、炭鉱閉山以降、製造業が中心であり、近年は2019年度に地方版IoT推進ラボの選定を受け「産業のデジタル化」の取組を始めたところである。

2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

「ひと」市民の健康や福祉、教育、「まち」産業や交通、社会インフラ、「自然」環境、エネルギー、農業の各分野で時代の流れを捉え、社会の変化に対応し、地域の経済発展や地域課題等の解決に取り組むため、横展開での連携を行い共創することで、持続可能性を高め、未来につながるまちづくりを推進する。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

①のおがたSDGsフェスタ開催やマッチング制度等の活用

- ・SDGs推進パートナーの取組を見える化
- ・市民参加型イベントを通じたSDGs意識の醸成
- ・パートナー同士のマッチング機会の提供

②行政DXの推進

- ・市民向けサービスの向上
- ・データ利活用の推進
- ・デジタルデバйд対策

③再生可能エネルギーの普及

- ・公共施設における再生可能エネルギーの積極的活用

5. 取組推進の工夫

①パートナーの取組の見える化だけでなく、市民参加型にすることで幅広い世代の方に向けて当事者意識の醸成を図った。

②庁内横断組織（DX推進本部会議）を中心に各部署のニーズに柔軟に応えながら、導入場面の拡大を図った。

③脱炭素先行地域の枠組みを活用し、PPAモデル導入することでメンテナンス等に係る費用の削減に取り組んだ。

6. 取組成果

①令和5年9月に、のおがたSDGs推進パートナー（2024年3月末時点で44の企業・団体が登録）の取組を紹介するポスター掲示や市民参加型ワークショップ、他市町と連携した物産展等、複合イベントを開催した。また「のおがたSDGs推進プラットフォーム」でのマッチング制度を利用した取組を2件実施した。

②令和5年度末までに280の手続きのオンライン化を実施。また窓口でのキャッシュレス決済導入や市が保有する69のデータのオープンデータ化、高齢者向けスマホ教室の開催（6回）に取り組んだ。

③汚泥再生処理センターの屋上部分に344枚の太陽光パネルを設置。年間191,306 kWhを発電し、同センターで消費する電力の約15%をカバーしている。

7. 今後の展開策

①パートナー同士の交流会の開催やフェスタの定期開催、SNS等を通じた情報発信に取り組む。

②災害発生時に市と市民間で避難所開設や被害発生状況等を共有する、災害時情報共有プラットフォームの構築および運用に取り組む。

③他の公共施設においても再生可能エネルギーの導入に取り組む。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

行政DXの推進に関して、手続きのオンライン化や電子決裁、ノーコードツールの活用などについて他自治体からの視察を多く受け入れており、先進的な取組として他地域へ手法の共有等を行っている。